



蘇る一瞬 みとよ写真帳 page 26

このコーナーは、文書館に保存している古い写真を皆さんに紹介します。



懐かしの1枚
こったしまかいづか
小蔦島貝塚 発掘現場
大正14(1925)年
仁尾町

仁尾町の沖合約1kmに浮かぶ小蔦島にある貝塚。小蔦島貝塚は約8000年前のもので、県内では最古級の縄文時代の遺跡。貝塚とは当時のゴミ捨て場で、ハマグリ、アサリ、カキ、サザエなどの貝殻のほか、シカやイノシシの軟骨、土器や石器なども出土している。大正12年頃、塩田埋立用の土砂を小蔦島で採取中に発見され、その後数回の学術的発掘調査が行われた。昭和33(1958)年に香川県指定史跡に指定された。

「思い出の1ページ」

「私が中学校の教員になったのは昭和24年で戦争が終わった直後。初めて赴任したのは三豊の学校でした」と話すのは安藤典雄さん(86)。

「私の専門は歴史でしたが戦犯教育と言われる時で、教科書が20〜30ページしかなく、教えられることが少ない時代でした。事実に基づいて何を教えたいのか、本当に手探りの毎日。そんなとき、小蔦島に貝が出るという話を聞いて面白そうだと思い、生徒を連れて実際に行ってみました。歩いていると貝や骨などがたくさんあり、「これはウサギの骨かな」「シカの爪もある」と生徒たちも興味津々。そこから、どうしてここからこういうものが出てくるのか、と当時の生活に思いを馳せ、歴史に興味を持ってくれましたね。後に県内最古級の貝塚として県指定遺跡にもなりました。尖底土器も見つけ、まだ当時は規制もない時代でしたので家で大事に保管していました。地元で出たものは地元で置くのがよいと考え、宗吉かわらの里展示館に譲りました。」

振り返ると、教材研究ノートには、赴任したその土地その土地の郷土史が残っています。その土地の遺跡や遺物を大事にすること、その土地の歴史を感じることは、地域を愛する心につながると感じています」
2月20日(金)から3月29日(日)まで、安藤さんが宗吉かわらの里展示館に収めた品々が並ぶ「新収蔵品展」が開催されます。歴史の一端に触れてみませんか。



世界の絶景、日本一の風景に認められた紫雲出山からの風景、全国で話題になっている漂流郵便局、野菜や果物など、三豊市には全国、世界に誇れるものがたくさんあります。見慣れた風景も少し新たな気持ちで見ると、絶景だということに気付きます、いつも食べている野菜も新鮮で驚沢なものだということに気付きます。視点を換えれば、新たな発見があります。あなたの、世界に誇れる三豊を見つけてみませんか。